




神戸市水上消防署歴史年表(明治・大正期)

20130330

年 (西暦)	消防組織制度の変遷、行事施策など	消防艇、消防車両の配備など	神戸港でのできごと
嘉永七年 (1853年)			(9月)プチャーチンがロシア軍艦「ディアナ号」で大阪湾に来航し、和田岬沖に投錨
安政五年 (1858年)			(6月)日米修好通商条約調印、兵庫開港が決まる
文久元年 (1861年)			(5月)イギリス公使オールコックが兵庫を訪れる
文久二年 (1862年)			(5月)ロンドン覚書により兵庫開港を5年延期
文久三年 (1863年)			(2月)フランス軍艦2隻が兵庫港に来航、和田崎に砲台構築を決定 (4月)第十四代將軍徳川家茂が摂海視察に際し、軍艦奉行勝海舟とともに小野浜に上陸
元治元年 (1864年)			(5月)幕府が海岸通付近に「神戸海軍操練所」設立、坂本竜馬、陸奥宗光らが入所、練習艦「観光丸」「黒龍丸」の2隻を配備 (写真は「海軍操練所跡の碑」)  (12月)和田崎に砲台完成
慶応二年 (1865年)			(9月)条約勅許を求めるイギリス・アメリカ・フランス・オランダ公使の艦隊が兵庫に停泊し、幕府と交渉を行う
慶応三年 (1867年)			(5月)兵庫開港の勅許くだる (9月)兵庫外国人居留地の造成が始まる (12月)兵庫開港 (12月)兵庫運上所(現神戸税関)が開設され業務開始 (写真は昔の面影を残す現在の神戸税関) 
	(9月)元号が9月8日に「慶応」から「明治」に改元される (9月)兵庫県が県庁舎や神戸運上所、居留地等の警備のために、従来の消防組以外に官設の消防組織を設置する		(1月)三宮神社前で備前藩兵が前方を横断した外国人に発砲・負傷させた「神戸事件」が発生(写真は神戸事件を伝える三宮神社境内の史跡碑) 

慶応四年、明治元年
(1868年)

(1月)池田信輝が築いた兵庫城の天守閣のあった地に「兵庫鎮台」が置かれ、のちに「兵庫裁判所」となる(写真は、兵庫運河の畔にある兵庫城跡の石碑)



(5月)兵庫裁判所が廃され、「兵庫県」誕生、伊藤博文が初代知事に就任(写真は明治35年(1902)年に兵庫県本庁舎として建設され現在の兵庫県公館)



(5月)鯉川河口付近に波止場が建設される(のちのメリケン波止場)

(7月)アメリカ領事館が海岸通に開設される(写真は領事館記念プレートのある現在の海岸通1丁目付近)



(8月)「大阪兵庫外国人居留地約定書」により外国人居留地が誕生(写真は当時を偲ぶ「旧居留地の地碑」)



明治二年
(1869年)

(6月)居留置会議が、外国人居留地の38番区画に警察、消防などが入居する庁舎を建設し、義勇消防隊として英国隊と米国隊の2隊を配備、隊長にA.C.シムが就任する(写真は現在の38番館)



(4月)「神戸病院(現神戸大学付属病院)」開設

明治三年
(1870年)

(2月)兵庫県が「当県並びに外国事務局出火消防方」を配置し、兵庫港・神戸港の両港に消防組織を設置する

(10月)神戸電信局が開局、神戸大阪間に電信開通

明治四年
(1871年)

(2月)イギリス人ジョン・マーシャルが初代兵庫港長となる


(4月)和田岬に洋式の灯台を建設(写真は須磨海岸移設後の赤灯台)







(6月)生田川付替え工事完了

明治五年 (1872年)		(7月)船灯や航法を規定し、船舶の衝突を予防する「船灯規則」が制定される (12月)太陽暦に移行し、12月3日に明治6年1月元旦となる
明治六年 (1873年)		(1月)「兵庫運上所」が「神戸税関」に改称
明治七年 (1874年)		(1月)本格的な海事法規となった「海上衝突予防規則」が制定、「船灯規則」廃止 (5月)大阪・神戸間に鉄道開設 (11月)居留地にガス灯が点灯(写真は復元された現在のガス等)
明治八年 (1875年)		(7月)神戸港棧橋に鉄道延長
明治九年 (1876年)		(5月)兵庫新川運河竣工 (9月)第一国立銀行神戸支店開設
明治十年 (1877年)	(2月)消防組織が警察の管理下となる	(1月)「神戸師範学校(現神戸大学発達科学部)」設立 (4月)天然痘流行
明治十一年 (1878年)		(10月)「和田岬消毒所(現厚生労働省神戸検疫所)」開設
明治十二年 (1879年)		(2月)弁天浜埋立竣工 (7月)コレラ大流行
明治十四年 (1881年)		(3月)「川崎兵庫造船所(のちの川崎造船所)」設立(写真は現在の川崎重工神戸造船工場)
明治十五年 (1882年)		(8月)コレラ大流行
明治十六年 (1883年)		(12月)神戸株式取引所開業
明治十七年 (1884年)		(5月)「神戸又新日報」創刊
明治十九年 (1886年)		(5月)コレラ大流行



明治二十一年 (1888年)			(11月)山陽鉄道兵庫明石間開通(のちの山陽本線)
明治二十二年 (1889年)			(4月)「神戸市」誕生 (5月)第一回神戸市会開会 (5月)鳴滝幸恭初代市長就任 (7月)東海道線新橋・神戸間鉄道全通
明治二十三年 (1890年)			(12月)神戸商業会議所設立
明治二十四年 (1891年)			(5月)ロシア太平洋艦隊4隻が入港 (6月)清国北洋艦隊6隻が入港
明治二十六年 (1893年)			(12月)「神阪電気鉄道(翌年摂津電気鉄道に改称、現阪神電気鉄道)」設立
明治二十九年 (1896年)			(3月)日本郵船が欧州航路開設 (4月)林田村、湊村が神戸市に編入
明治三十一年 (1898年)			(2月)神戸新聞創刊 (4月)苅藻島埋立完了
明治三十二年 (1899年)	(7月)外国人居留地の返還に際し、居留地会議が英国消防隊と米国消防隊管理の消防ポンプ車2台を含む消防装備全てを神戸市に寄付、併せて隊長のA.C.シムが消防名誉顧問として消防技術の伝承にあたる(写真は「A.C.シム記念碑」、人力ポンプが主力の時代に消防ポンプ車による消火技術をもたらしたことは画期的であり、これが神戸における消防装備近代化へのルーツであったとも言え、その功績は大きい)		(4月)「神戸水上警察署」開設 (7月)外国人居留地返還 (12月)兵庫運河竣工
明治三十三年 (1900年)			(1月)市立東山病院開院
明治三十四年 (1901年)			(7月)湊川改修工事完了
明治三十五年 (1902年)			(3月)「神戸高等商業学校(現神戸大学経済学部)」設立
			


<p>明治三十六年 (1903年)</p>			<p>(4月)六甲山系中腹に錨型を植樹(写真は冠雪した現在の錨山)</p>	
<p>明治三十七年 (1904年)</p>			<p>(11月)小野浜海陸連絡線完成</p>	
<p>明治三十八年 (1905年)</p>			<p>(7月)「神戸三菱造船所」設立(写真は現在の三菱重工神戸造船所)</p> <p>(9月)「神戸製鋼所」設立(写真は現在の神戸製鋼所)</p>	 
<p>明治四十年 (1907年)</p>			<p>(5月)市章制定</p> <p>(7月)「兵庫電気軌道(現山陽電鉄)」設立</p> <p>(8月)鉄道臨港線、神戸港駅開業</p> <p>(9月)錨山の東に市章を植樹(写真は現在の市章山)</p> <p>(10月)「箕面有馬電気軌道(現阪急電鉄)」設立</p>	
<p>明治四十一年 (1908年)</p>			<p>(4月)ブラジル移民第1便「笠戸丸(6023t)」が出港</p>	
<p>明治四十二年 (1909年)</p>			<p>(10月)日本ダンロップ創業</p>	
<p>明治四十三年 (1910年)</p>			<p>(3月)「兵庫電気軌道」兵庫須磨間開通</p>	
<p></p>	<p>(7月)元号が7月19日に「明治」から「大正」に改元される</p>		<p>(4月)市立東山病院内に「衛生</p>	

明治四十五年、大正元年 (1912年)			試験所(現神戸市環境保健研究所)設置(写真は、ポートアイランドにある現在の環境保健研究所の建物) 
大正二年 (1913年)			(8月)新港第一突堤竣工 (11月)新港第四突堤竣工
大正三年 (1914年)			(9月)新港第三突堤竣工
大正四年 (1915年)			(8月)大阪商船が神戸サンフランシスコ航路開設
大正六年 (1917年)			(5月)神戸岡崎銀行設立
大正七年 (1918年)			(8月)米騒動発生
大正八年 (1919年)	(7月)大阪、京都、横浜、神戸、名古屋の五大都市の消防事務が府県に移管され、併せて警察署から独立した消防署を設置する「特設消防署規程」が勅令をもって公布される (7月)神戸市内には東消防署(のちの生田消防署)、西消防署の二署が設置され、東消防署は三宮警察署に同居し、操船勤務の消防手2名を含む計67名の署員で組織される(写真は当時使用されていたものと同型の国産馬引き蒸気ポンプ) 		(4月)「内務省神戸土木出張所(現国土交通省近畿地方整備局神戸港湾事務所)」設置(写真は現在の神戸港湾事務所) 
大正九年 (1920年)	(4月)119報知電話が三宮電話局と西消防署間に架設 (11月)東消防署が、明石町に新築移転		(6月)神戸港内でガソリン船爆発事故 (8月)「神戸海洋気象台」業務開始 (8月)「神戸高等商船学校(のちの神戸商船大学、現神戸大学海事科学部)」設立 (9月)新港第二突堤竣工
大正十年 (1921年)			(3月)開港50年、市制実施30年式典
大正十二年 (1923年)			(8月)内務省が神戸港を重要港湾に指定 (9月)関東大震災による鉄道網不通で、神戸港が救援物資輸送基地となる
大正十三年 (1924年)	(4月)119報知電話が葺合電話局と東消防署間に架設		
大正十四年			(1月)摩耶ケーブル開通

(1925年)		(7月)日本放送協会関西支部神戸出張所(現NHK神戸放送局)開局
大正十五年、昭和元年 (1926年)	(12月)元号が12月25日に「大正」から「昭和」に改元される	(3月)神戸有馬電気鉄道(現神戸電鉄)設立 (12月)和田岬沖で「第二十八共同丸」が汽船と衝突、数名溺死


注:参考文献は「神戸開港百年史(神戸市)」「区誌生田いまむかし(生田区振興連絡協議会)」「新中央区歴史物語(神戸市中央区役所)」「こうべ市制100周年記念誌(神戸市)」「神戸市文書館神戸歴史年表(神戸市)」「兵庫県警察史(兵庫県警察本部)」「神戸水上警察百年の歩み(神戸水上警察署)」「神戸外国人居留地(神戸新聞出版センター)」。参考文献及び写真出展は、「神戸消防-1958版10周年記念誌-(神戸市消防局)」「神戸消防のあゆみ-自治体消防発足30周年記念誌-(神戸市消防局)」「新たなる創造と親和力の結晶-自治体消防発足40周年記念誌-(神戸市消防局)」「五〇年の英知を明日の防災に(神戸市消防局)」など

SINCE 1950



〒650-0045
神戸市中央区
港島3-2-2

電話 (078) 302-0119
FAX (078) 303-3119
E-MAIL fb_suijyo-1@office.city.kobe.lg.jp
WEB SITE <http://www.city.kobe.lg.jp/safety/fire/firehouse/suijo>



神戸市水上消防署 